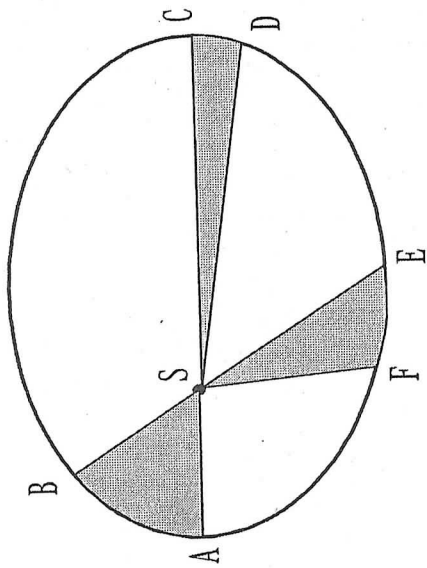


【第二法則を確かめよう】



第2法則は火星がA→B, C→D, E→Fを通過する時間がすべて等しいなら

= _____ = _____ となる。

実際はどうだろうか、以下の手順で確かめる。

- ① $M_1 \rightarrow M_2$ の日数を計算する。 _____ 日
- $M_3 \rightarrow M_4$ の日数を計算する。 _____ 日
- $M_5 \rightarrow M_6$ の日数を計算する。 _____ 日

② グラフの方眼を利用して以下の面積を求める。

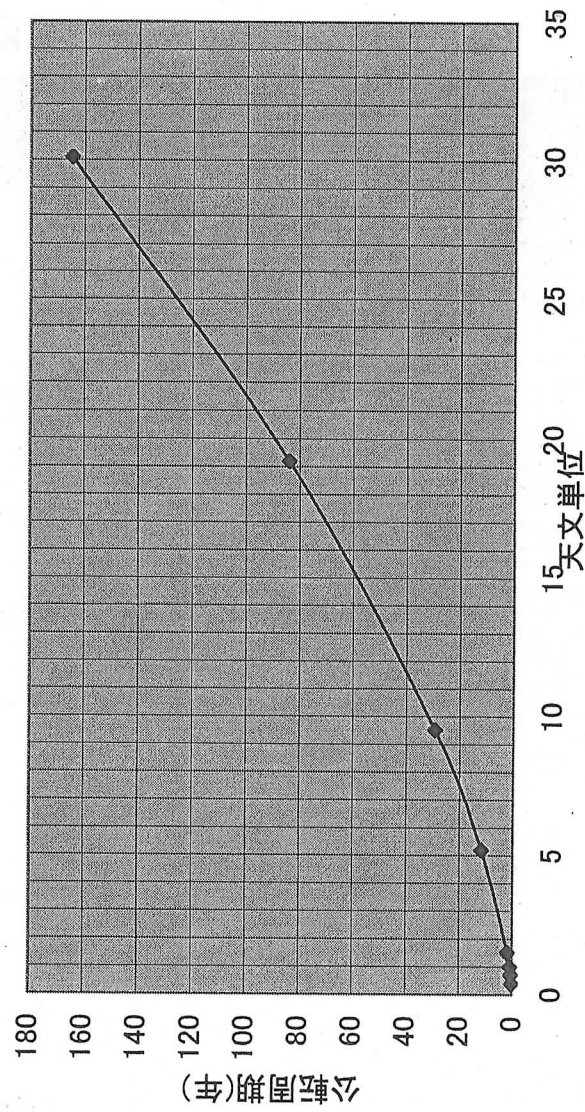
- 扇形 M_1SM_2 の面積=方眼 _____ 個
- 扇形 M_3SM_4 の面積=方眼 _____ 個
- 扇形 M_5SM_6 の面積=方眼 _____ 個

【第三法則を試してみよう】

	平均距離(a) (天文単位)	公転周期(p) (年)
水星	0.39	0.24
金星	0.72	0.62
地球	1	1
火星	1.52	1.88
木星	5.2	11.86
土星	9.52	29.35
海王星	19.2	84
天王星	30.1	164.8

散布図は単純な等間隔の方眼紙。データのカーブからはどんな関係(関数)がよくわかりません。両対数グラフにすると直線になります。何らかの関数になっていることがうかがえます。エクセルでグラフの間隔を自動で書かせてしまったので、これでは何乗の関数かわからな

散布図



対数グラフ

